
和光市
地域福祉に関するアンケート調査（③地域関係福祉者）
報告書

令和7年2月

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査の実施について	1
3. 有効回答件数及び回答率	1
4. 報告書の見方	1
II. 集計結果	2
1. 基礎質問	2
2. 担当地域、活動地域について	8
3. 地域福祉に関する質問	15
4. 権利擁護支援について	19
5. 再犯防止について	22
6. 自由意見	25

I. 調査の概要

1. 調査目的

「第五次和光市地域福祉計画・和光市社会福祉協議会地域福祉活動計画」（令和8年度～令和12年度）を策定する基礎資料とすることを目的に、地域福祉に関する意識や考え方について調査を実施した。

2. 調査の実施について

対象者	地域福祉関係者
実施期間	令和6年11月28日（木）～令和6年12月23日（月）
実施方法	紙調査票及びWeb調査フォーム

3. 有効回答件数及び回答率

配布数	回答数	回答率	有効回答数	有効回答率
102 件	87 件	85.3%	86 件	84.3%

4. 報告書の見方

- （1）回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0％を前後することがある。
- （2）複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0％を超える。なお、複数回答を求める質問についての図表上の表記は、以下のとおりである。

「MA％」（Multiple Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

「2LA％」（2 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合

「3LA％」（3 Limited Answer）

＝回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合

- （3）本文中のグラフや数表で、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。

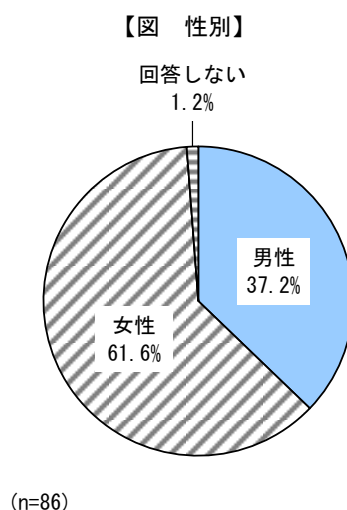
Ⅱ. 集計結果

1. 基礎質問

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

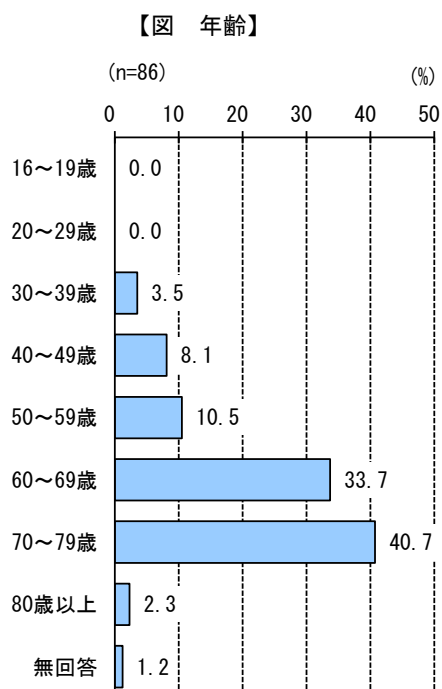
性別は、「男性」が37.2%、「女性」が61.6%となっている。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)

年齢は、「70～79歳」が40.7%と最も多く、次いで、「60～69歳」が33.7%、「50～59歳」が10.5%、「40～49歳」が8.1%、「30～39歳」が3.5%となっている。

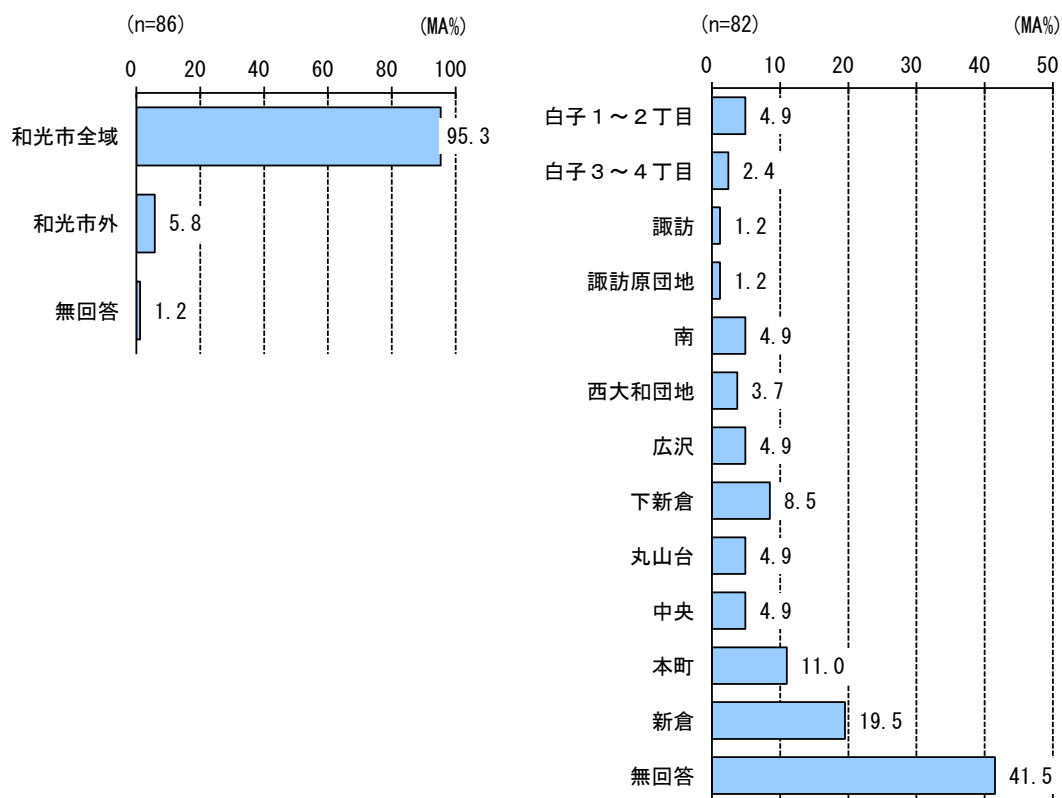


(3) 現在の担当地域、活動地域

問3 現在の担当地域、活動地域を教えてください。(いくつでも○)

現在の担当地域、活動地域は、「和光市全域」が95.3%、「和光市外」が5.8%となっている。
和光市内の担当地域、活動地域は「新倉」が19.5%と最も多く、次いで、「本町」が11.0%、「下新倉」が8.5%、「白子1～2丁目」、「南」、「広沢」、「丸山台」、「中央」がそれぞれ4.9%、「西大和団地」が3.7%となっている。

【図 現在の担当地域、活動地域】

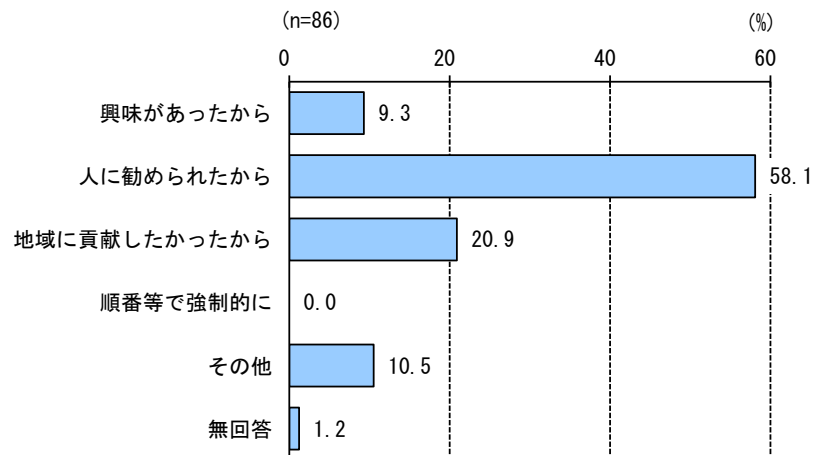


(4) 活動を始めたきっかけ

問4 活動を始めたきっかけを教えてください。(主なもの1つに○)

活動を始めたきっかけは、「人に勧められたから」が58.1%と最も多く、次いで、「地域に貢献したかったから」が20.9%、「興味があったから」が9.3%となっている。

【図 活動を始めたきっかけ】

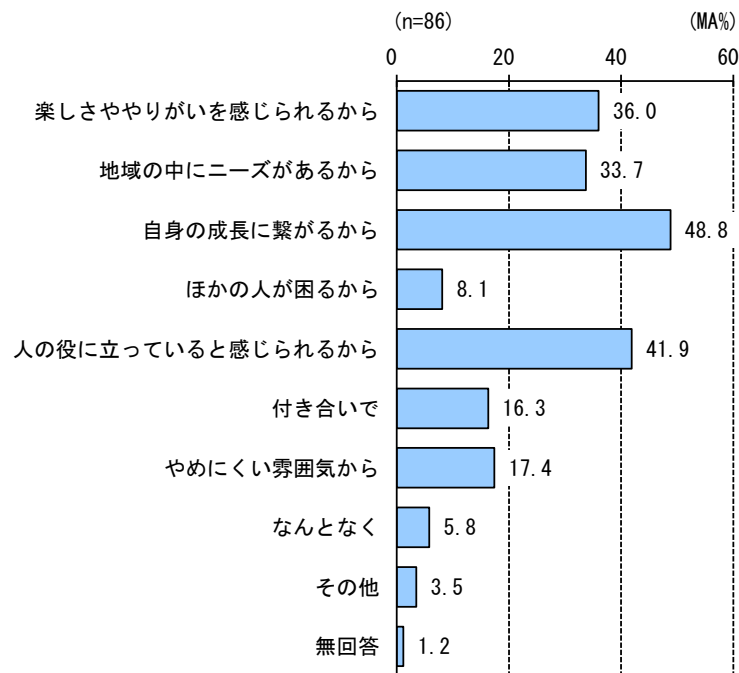


(5) 活動が続けてきた理由

問5 活動が続けてきた理由をお答えください。(いくつでも○)

活動が続けてきた理由は、「自身の成長に繋がるから」が 48.8%と最も多く、次いで、「人の役に立っていると感じられるから」が 41.9%、「楽しさややりがいを感じられるから」が 36.0%、「地域の中にニーズがあるから」が 33.7%、「やめにくい雰囲気から」が 17.4%となっている。

【図 活動が続けてきた理由】

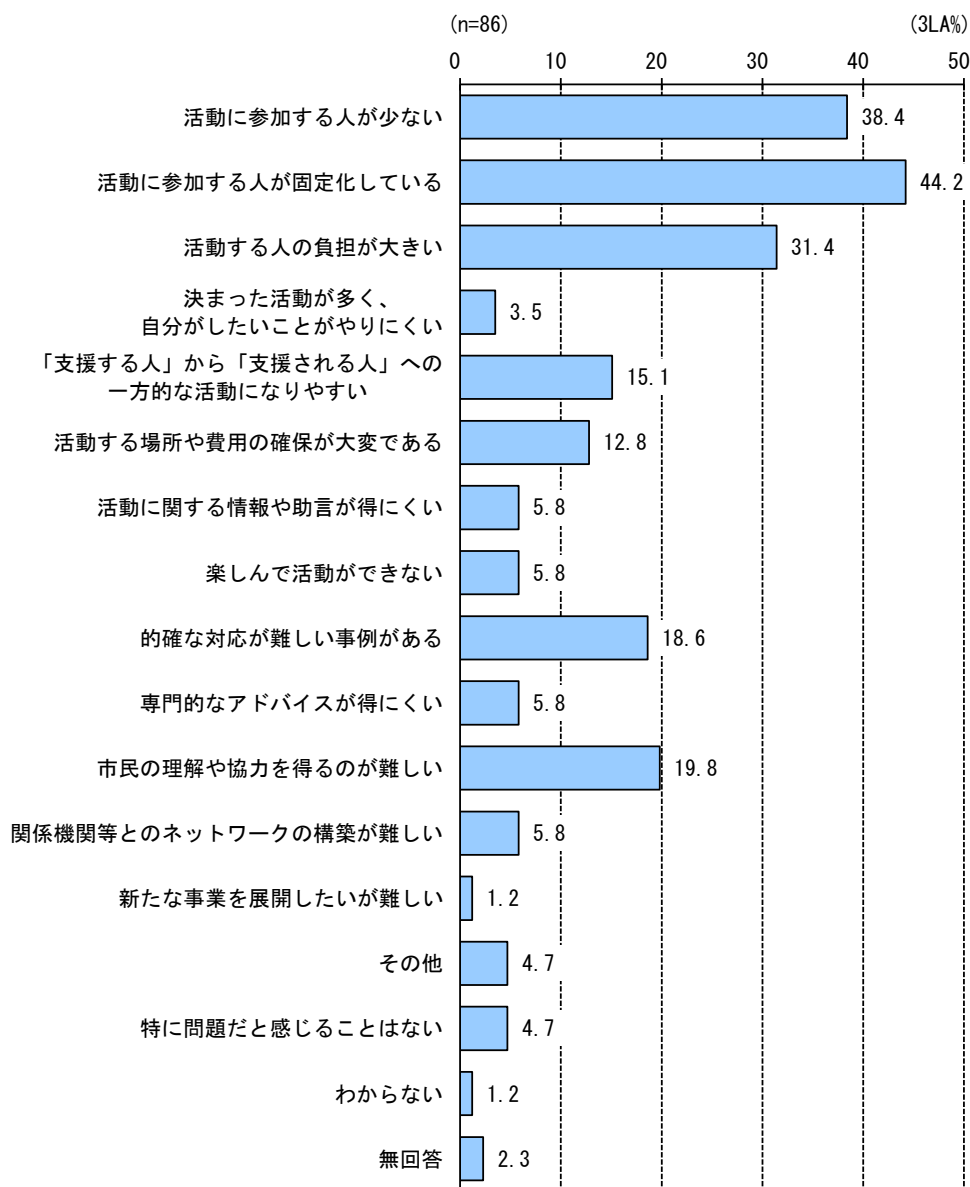


(6) 活動を継続する上で課題だと思うこと

問6 活動を継続する上で、課題だと思うことを次の中からお答えください。(3つまで○)

活動を継続する上で課題だと思うことは、「活動に参加する人が固定化している」が 44.2%と最も多く、次いで、「活動に参加する人が少ない」が 38.4%、「活動する人の負担が大きい」が 31.4%、「市民の理解や協力を得るのが難しい」が 19.8%、「的確な対応が難しい事例がある」が 18.6%となっている。

【図 活動を継続する上で課題だと思うこと】



(7) 困っていることや、市・専門機関等に支援してほしいこと

問 6 - 1 上記以外で困っていることや、市・専門機関等に支援してほしいことがあればお書きください。
(自由記載)

自由記載
私たちが活動する上での対応の範囲は個人情報もあり、どこまで踏み込んでも良いのでしょうか。
ボランティアと言うときれいな言葉で、市役所の仕事の下請け、ただ働き、だと思ふ。守秘義務が重いため、息苦しい。活動を止めたい。
駅北と南では活動に差がある様に思う。委員として参加すべき場所がほとんど南口方面が多いので、交通手段等参加を見合わせてしまうことが多々ある。広報に地域での活動をもう少し解りやすく、見やすく載せてほしい。
課題のある方を行政機関につなげた後、どのような対応になったのか個人情報のためうかがうことができないのは不便です。
対応し、報告時に気付いた点やお願いしたことなど、その後の対応がどうなったのか連絡などあまりない。支援後の現状が分からない。
市、専門機関等から逆に顔つなぎをして頂くと、こちらも話しやすい(なかなか会うことができない。怪しまれたり。)
活動は固定、決定日程で動いている。仲間の理解があるので、指定日に欠席でもとがめ、責任ない。会議、会の書記なので、私がお休みだと、もう一人の書記さんが大変になるだろうと思っている。私の担当地域は日本人以外の方も多い。小学校で、幼稚園で、気になる外国国籍世帯の方の情報は？高齢者の場合は地域包括に地域の方も相談される箇所がある。そういう児童のいる転入世帯の方が少し心配である。言語わかる方と支援にいつているのか？あらかじめ理解していれば、私は翻訳アプリ使う。
地域のために必要を感じ企画しても参加者が少なく市民に関心がない人が多い。
自分の専門性が生かせない。
課題を家族の方と共有しにくい。とりわけ、ご主人・息子さんなど男性の方に話をするのが苦手です。
担当地域が自分も含めて、高齢者世帯が多いのですが、住民が民生委員の存在や又何を援助して貰えるのか知らない人が殆どだと思うので、民生委員の存在を認識して貰うのに他の地域ではどの様にしているのでしょうか。
民生委員に対する周りのイメージがより良くなればなり手も増えるのでは。

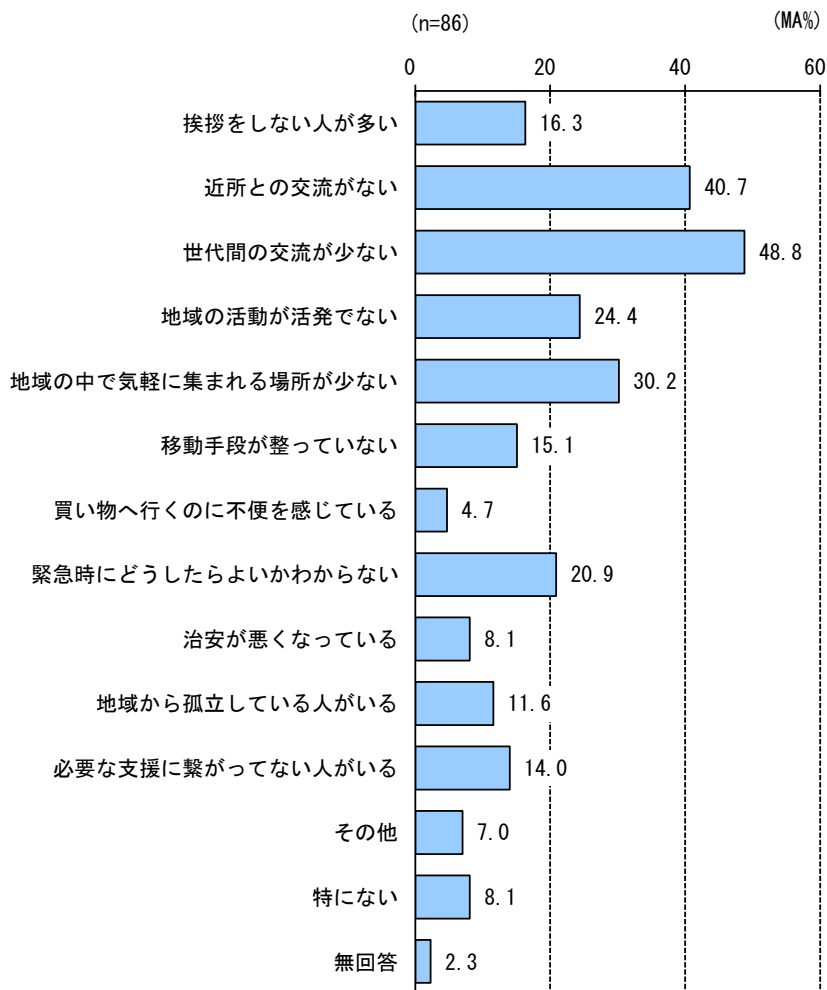
2. 担当地域、活動地域について

(1) 担当地域、活動地域において、課題に感じること

問7 担当地域、活動地域において、課題に感じることは何ですか。(いくつでも○)

担当地域、活動地域において、課題に感じることは、「世代間の交流が少ない」が 48.8%と最も多く、次いで、「近所との交流がない」が 40.7%、「地域の中で気軽に集まれる場所が少ない」が 30.2%、「地域の活動が活発でない」が 24.4%、「緊急時にどうしたらよいかわからない」が 20.9%となっている。

【図 担当地域、活動地域において、課題に感じること】

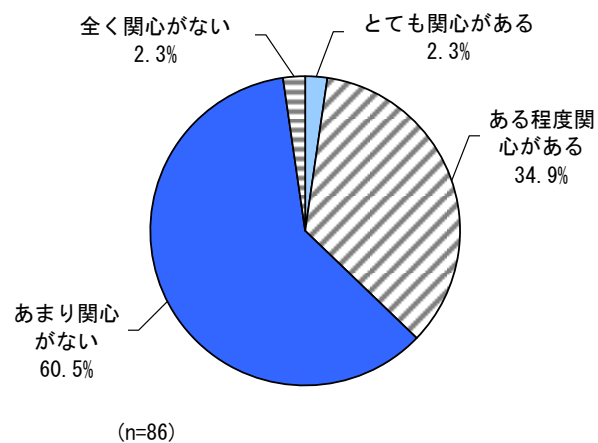


(2) 担当地域、活動地域の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思うか

問8 担当地域、活動地域の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思いますか。
(1つに○)

担当地域、活動地域の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思うかは、「あまり関心がない」が60.5%と最も多く、次いで、「ある程度関心がある」が34.9%、「とても関心がある」、「全く関心がない」がそれぞれ2.3%となっている。

【図 担当地域、活動地域の住民は、地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思うか】



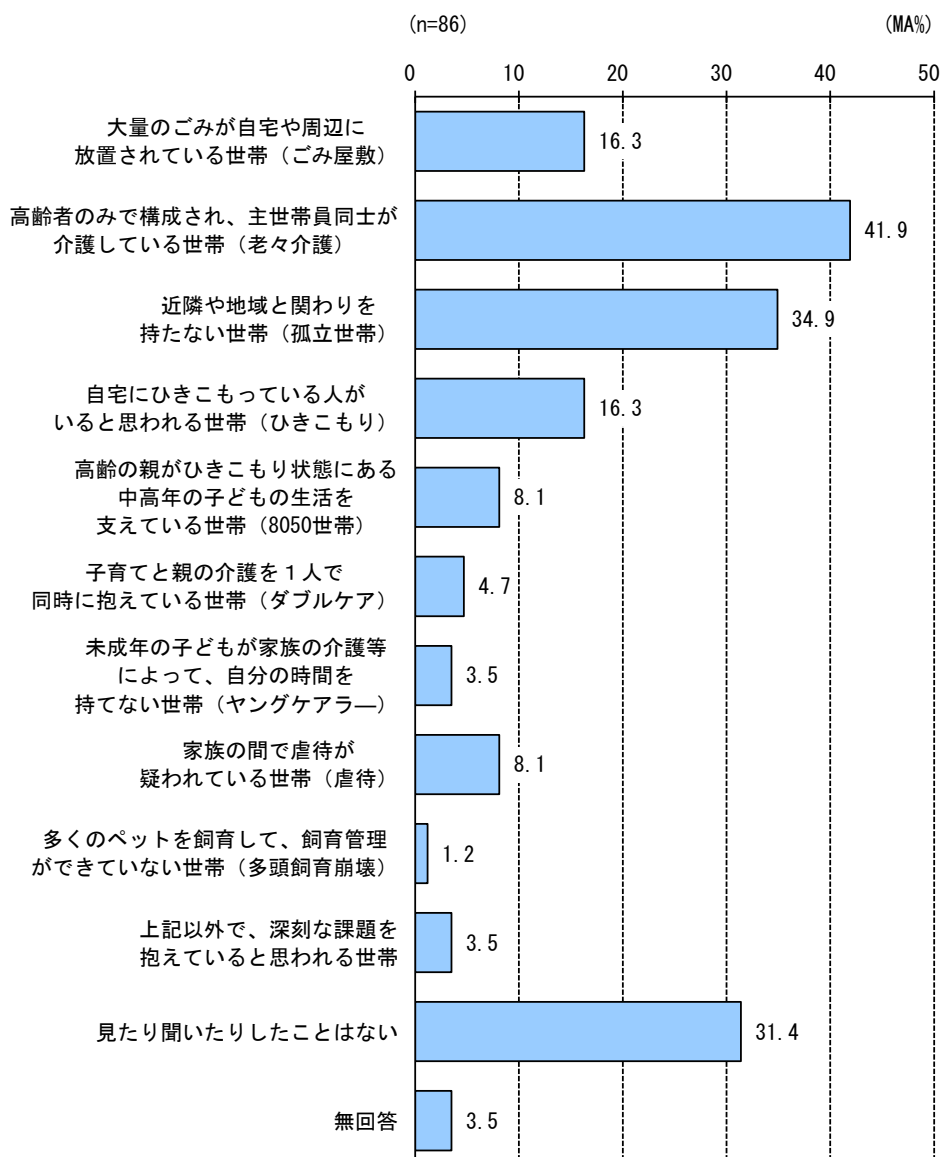
(3) 担当地域、活動地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか

問9 あなたの担当地域、活動地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

担当地域、活動地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるかは、「高齢者のみで構成され、主世帯員同士が介護している世帯（老々介護）」が 41.9%と最も多く、次いで、「近隣や地域と関わりを持たない世帯（孤立世帯）」が 34.9%、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）」がそれぞれ 16.3%、「高齢の親がひきこもり状態にある中高年の子どもの生活を支えている世帯（8050 世帯）」、「家族の間で虐待が疑われている世帯（虐待）」がそれぞれ 8.1%となっている。

一方、「見たり聞いたりしたことはない」が 31.4%となっている。

【図 担当地域、活動地域で課題を抱えていると思われる世帯を見聞きしたことがあるか】

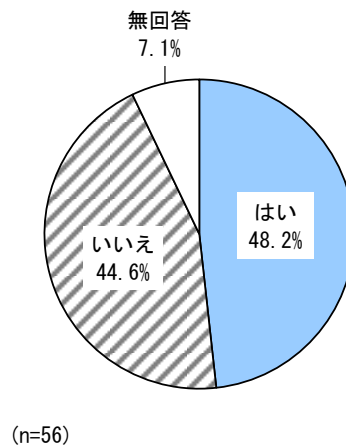


(4) 課題を抱えていると思われる世帯を支援したことがあるか

問9-1 問9の1～10の項目の世帯を支援したことがありますか。(1つに○)

課題を抱えていると思われる世帯を支援したことがあるかは、「はい」が48.2%、「いいえ」が44.6%となっている。

【図 課題を抱えていると思われる世帯を支援したことがあるか】



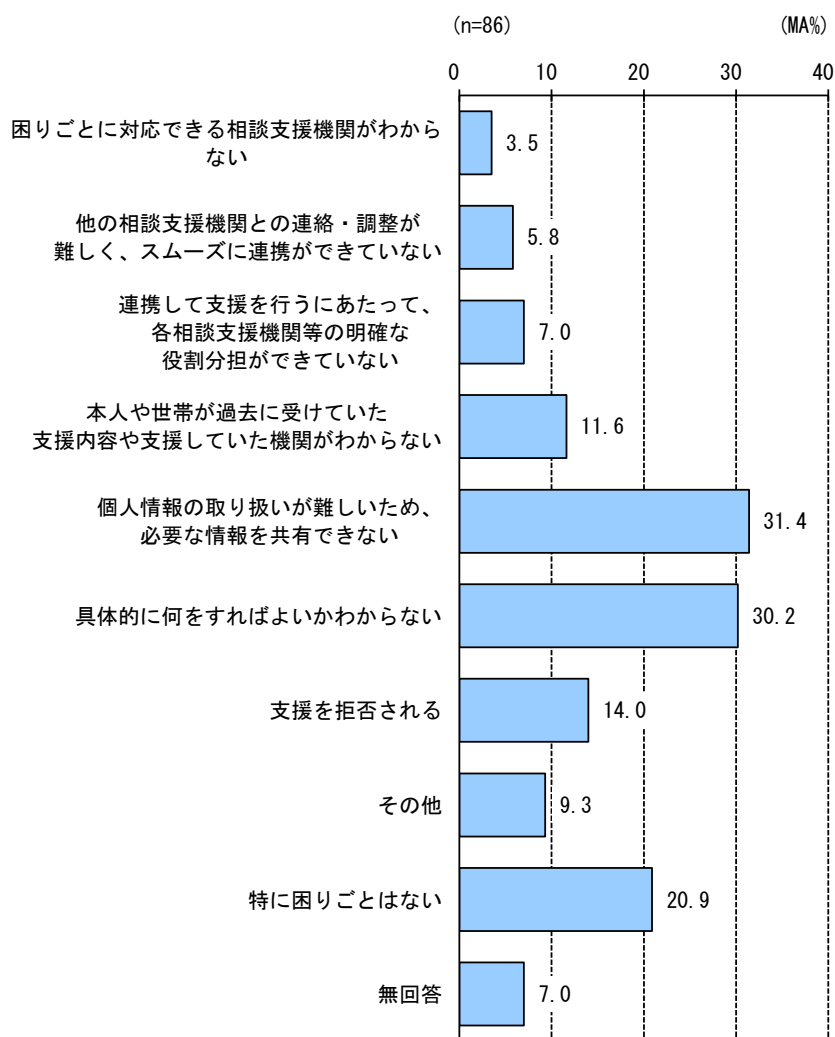
(5) 活動している中での困りごと

問10 活動している中でどのような困りごとがありますか。(いくつでも○)

活動している中での困りごとは、「個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」が31.4%と最も多く、次いで、「具体的に何をすればよいかわからない」が30.2%、「支援を拒否される」が14.0%、「本人や世帯が過去に受けていた支援内容や支援していた機関がわからない」が11.6%、「連携して支援を行うにあたって、各相談支援機関等の明確な役割分担ができていない」が7.0%となっている。

一方、「特に困りごとはない」が20.9%となっている。

【図 活動している中での困りごと】

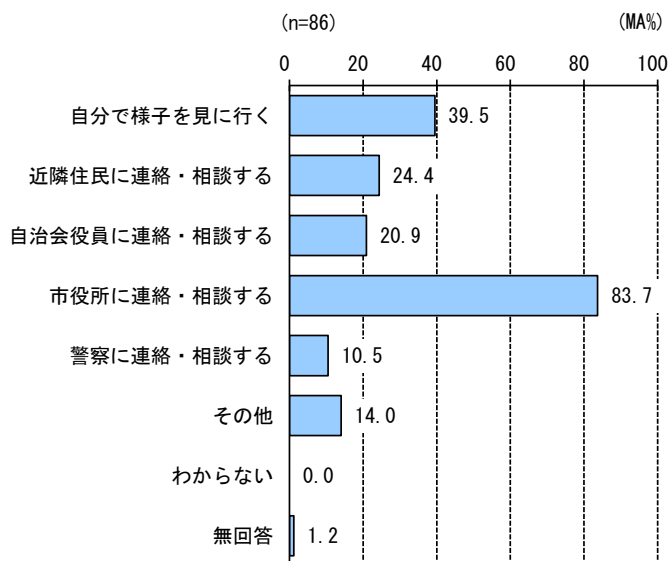


（６）近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際の対応

問11 近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際、どのように対応しますか。（いくつでも○）

近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際の対応は、「市役所に連絡・相談する」が83.7%と最も多く、次いで、「自分で様子を見に行く」が39.5%、「近隣住民に連絡・相談する」が24.4%、「自治会役員に連絡・相談する」が20.9%、「警察に連絡・相談する」が10.5%となっている。

【図 近隣と関わりを持たず、何らかの助けが必要と思われる世帯を発見した際の対応】

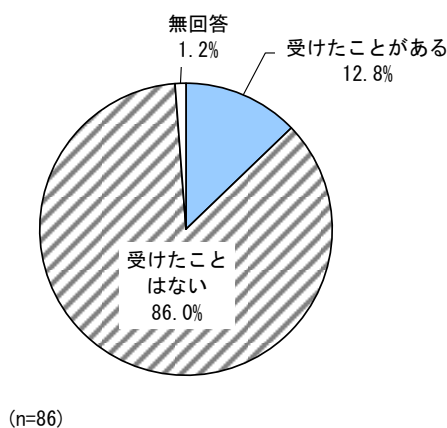


（７）「ひきこもり」の傾向にある方やご家族等からの相談や情報提供を受けたことがあるか

問12 「ひきこもり」の傾向にある方やご家族等から、相談や情報提供を受けたことがありますか。（１つに○）

「ひきこもり」の傾向にある方やご家族等からの相談や情報提供を受けたことがあるかは、「受けたことがある」が12.8%、「受けたことはない」が86.0%となっている。

【図 「ひきこもり」の傾向にある方やご家族等からの相談や情報提供を受けたことがあるか】



(8)「ひきこもり」の傾向にある方やご家族等からの相談や情報提供を受けた際、対応に困ったこと（自由記述）

問12-2 相談を受けた際、対応に困ったことがありましたら、お書きください。（自由記載）

自由記載
ご家族間で、おっしゃっていることに違いがあり、行政に対する不信感も持たれている様子ご本人の意志を尊重し何がご本人にとって幸せなことかご家族様との継がりを(信頼関係)どのように築いていくか。
民生委員の会議で、市がひきこもりの相談窓口を持つことがわかって教えてあげた。
市や社協への相談窓口があることも伝えと、そこまでは相談したくない、自分で色々やってみると伝えられて拒否されてしまう。
その後の行政機関の対応が分からない。
市内の話ではありませんが、親(高齢者)への虐待という話を聞いたことがあります。しかし親は誰にも言わないで！と話したそうです。とても難しい問題と思います。
学校からの情報相談だったが、私の経験、知識では助言できない引きこもりの小学生の家庭がありました。
日頃から「身なりが整っていない。風呂も好まないため、汚れているので人とのつき合いが苦手である」とわかった。生活が改善できれば「ひきこもり」も直る可能性ありと感じた。
特にはない。今はインターネットの教育等も進んでいる。通学せずとも自分にあう環境で学べる。ひきこもりとは言わず、太陽を浴びるだけでも。親の常識を変えれば、と思うが、そういうことが子供を叩いたり等、虐待されているかのような青あざにつながっている場合には、私も通報する。親も地域の大人の体操教室やコミュニティにつなげて、子供も楽しめるようになっている。学校は行かないが、地域のダンス教室等には参加する等であれば、ひきこもりではない。家で何でもできてしまう。親が学校へは通わせない世帯もあって、問題視されている。子供は学校に行きたいようだが兄弟姉妹に流されて、一人では通うという決断に至れないそうだ。ネットでも卒業できる学校が小・中学校でも設立されるのではないかな？そういう子供の為にはあってほしい、と思うようになった。障がいや病気の子供も学べる。
双子の育児や初めての出産など、身体的にも精神的にも疲れていて外出が難しいケース。育児の人手が足りない、少しでもいいから1人の時間がほしいなど。産後の各種サポートを案内するが、手続きや書類の煩雑さに申し込みまで踏み出せない人もいる。

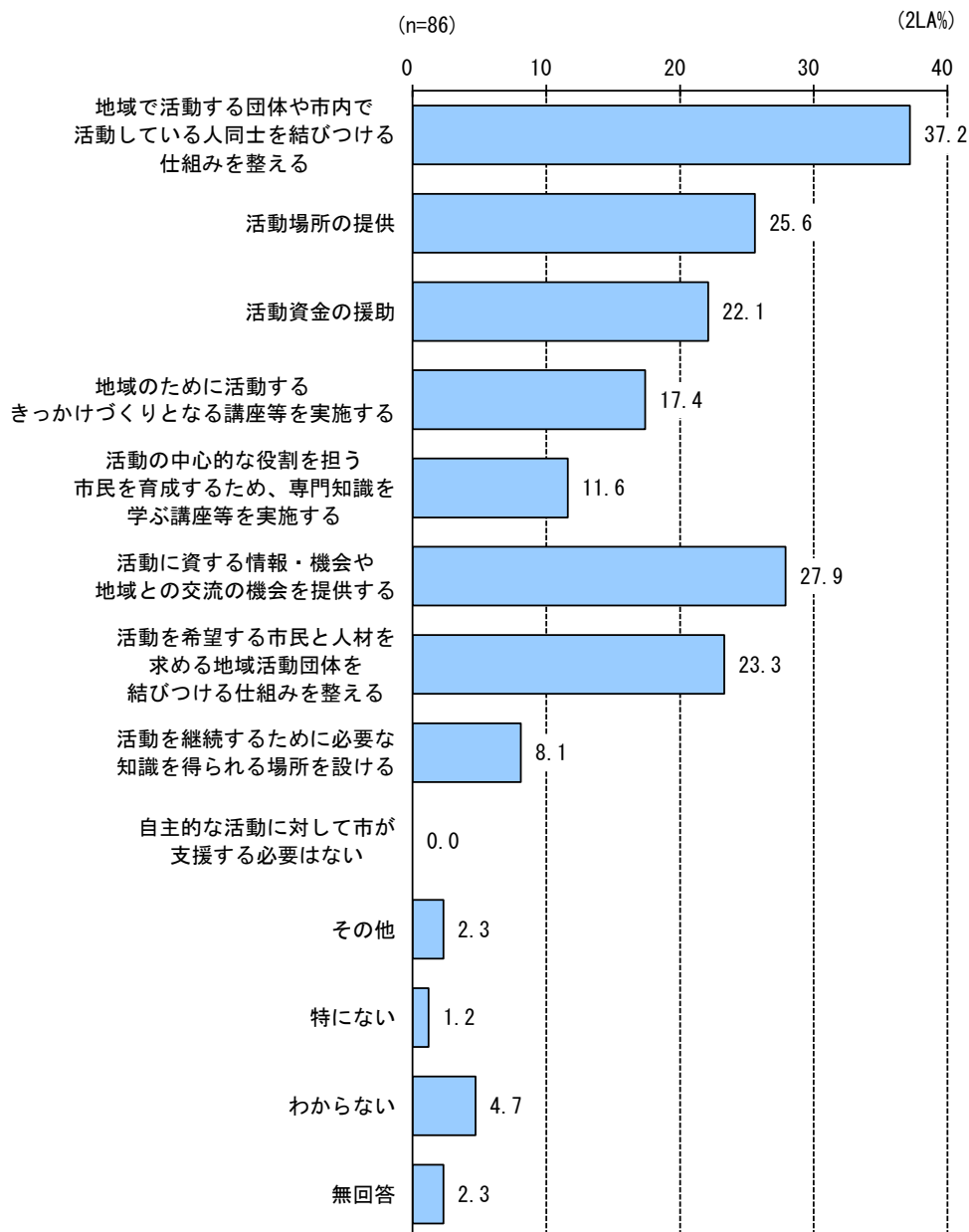
3. 地域福祉に関する質問

(1) 地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、市はどのような取り組みを進めるべきだと思うか

問13 地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、市はどのような取り組みを進めるべきだと思いますか。（2つまで○）

地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、市はどのような取り組みを進めるべきだと思うかは、「地域で活動する団体や市内で活動している人同士を結びつける仕組みを整える」が 37.2%と最も多く、次いで、「活動に資する情報・機会や地域との交流の機会を提供する」が 27.9%、「活動場所の提供」が 25.6%、「活動を希望する市民と人材を求める地域活動団体を結びつける仕組みを整える」が 23.3%、「活動資金の援助」が 22.1%となっている。

【図 地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、市はどのような取り組みを進めるべきだと思うか】

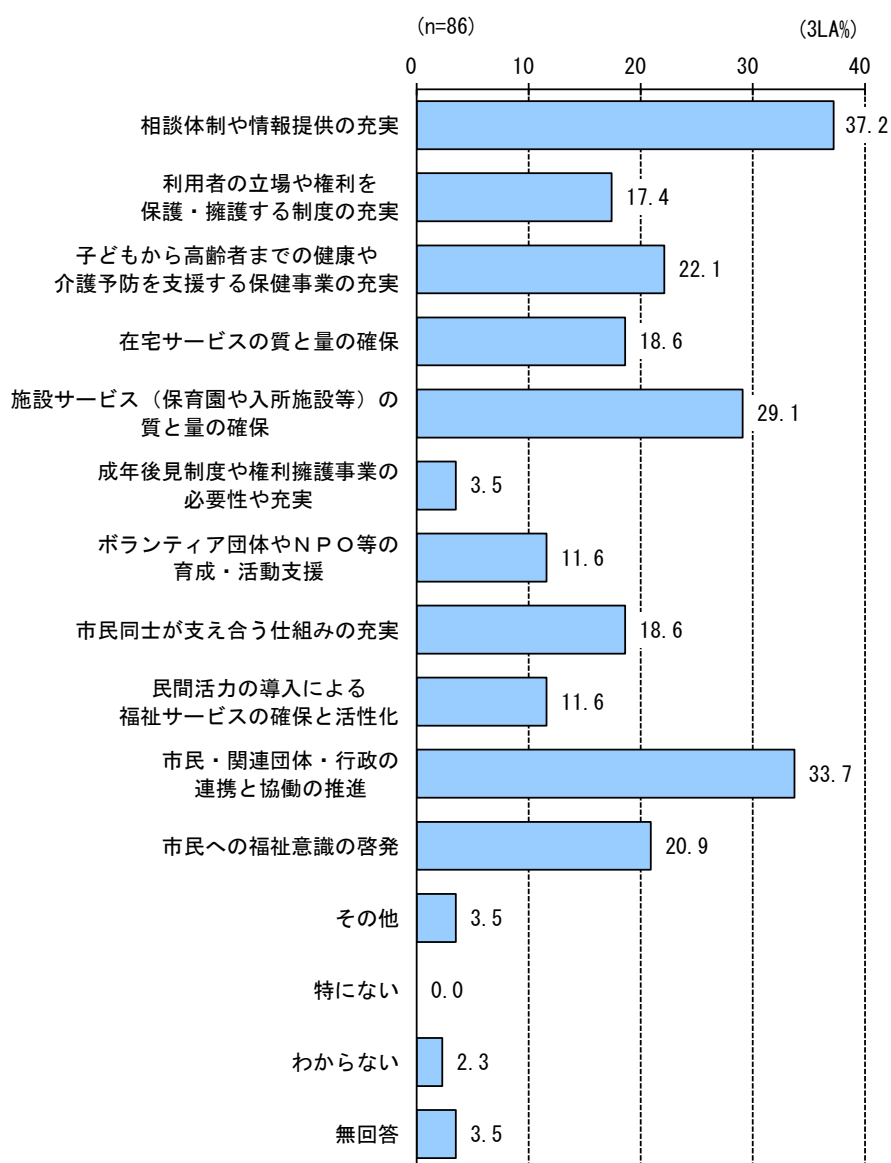


(2) 福祉サービスをより充実していくために、特に重要と考える取り組み

問14 福祉サービスをより充実していくために、特に重要と考える取り組みは何ですか。
(3つまで○)

福祉サービスをより充実していくために、特に重要と考える取り組みは、「相談体制や情報提供の充実」が 37.2%と最も多く、次いで、「市民・関連団体・行政の連携と協働の推進」が 33.7%、「施設サービス（保育園や入所施設等）の質と量の確保」が 29.1%、「子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実」が 22.1%、「市民への福祉意識の啓発」が 20.9%となっている。

【図 福祉サービスをより充実していくために、特に重要と考える取り組み】

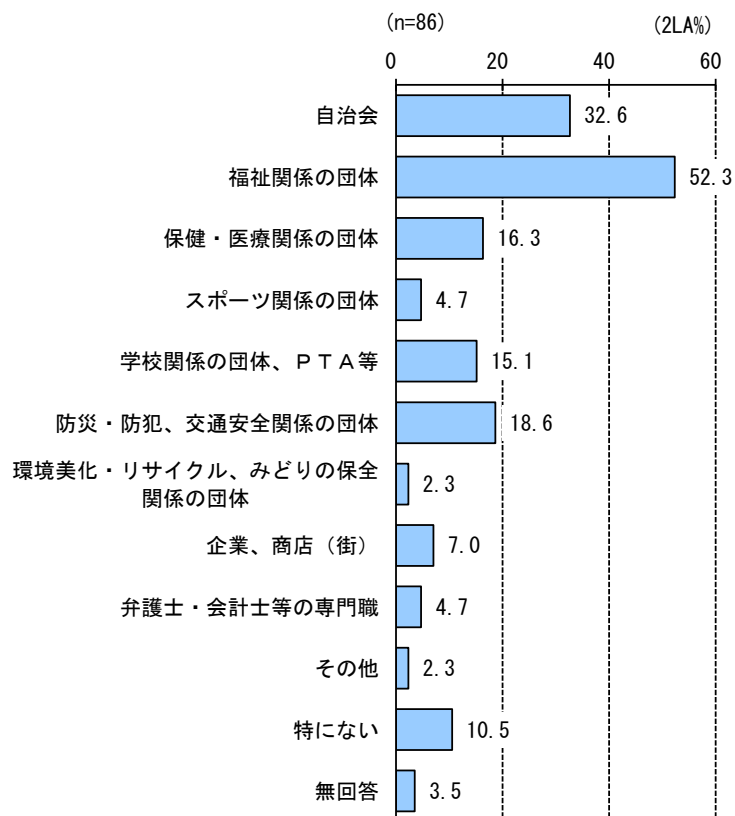


(3) 現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織

問15 現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織はありますか。（2つまで○）

現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織は、「福祉関係の団体」が52.3%と最も多く、次いで、「自治会」が32.6%、「防災・防犯、交通安全関係の団体」が18.6%、「保健・医療関係の団体」が16.3%、「学校関係の団体、PTA等」が15.1%となっている。

【図 現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織】

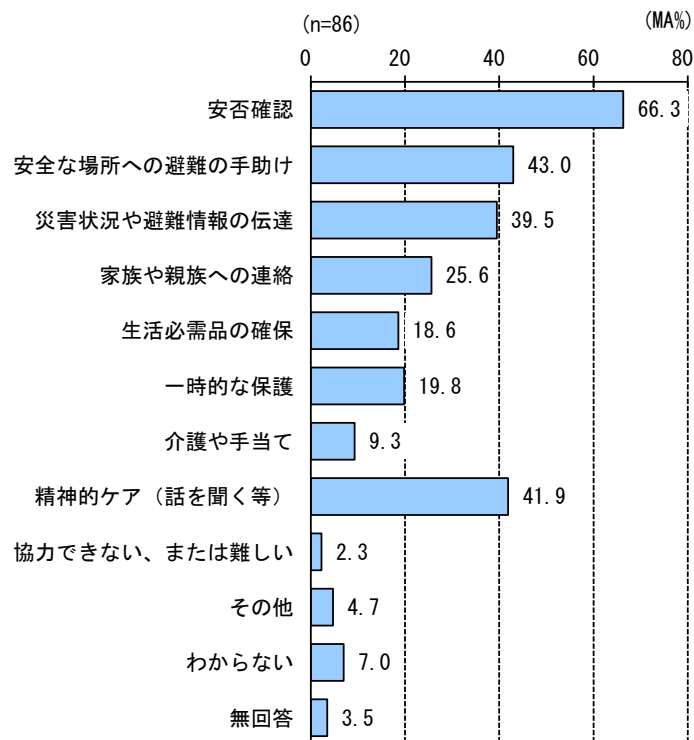


(4) 災害時に地域福祉関係者として協力できるもの

問16 災害時に地域福祉関係者としてご協力いただけるものはありますか。(いくつでも○)

災害時に地域福祉関係者として協力できるものは、「安否確認」が 66.3%と最も多く、次いで、「安全な場所への避難の手助け」が 43.0%、「精神的ケア（話を聞く等）」が 41.9%、「災害状況や避難情報の伝達」が 39.5%、「家族や親族への連絡」が 25.6%となっている。

【図 災害時に地域福祉関係者として協力できるもの】



4. 権利擁護支援について

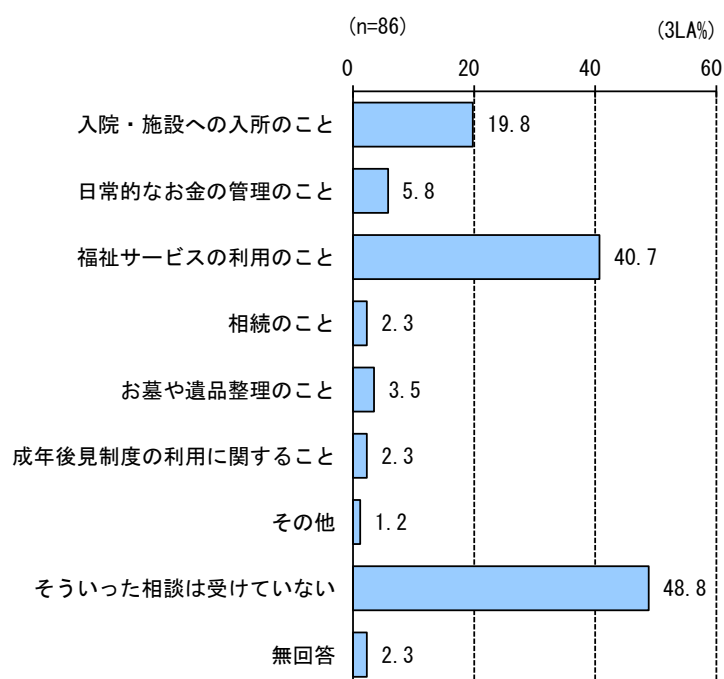
(1) 活動のなかで多い困りごとや相談

問17 活動の中でどのような困りごとや相談が多いと感じますか。(3つまで○)

活動のなかで多い困りごとや相談は、「福祉サービスの利用のこと」が 40.7%と最も多く、次いで、「入院・施設への入所のこと」が 19.8%、「日常のお金の管理のこと」が 5.8%、「お墓や遺品整理のこと」が 3.5%、「相続のこと」、「成年後見制度の利用に関すること」がそれぞれ 2.3%となっている。

一方、「そういった相談は受けていない」が 48.8%となっている。

【図 活動のなかで多い困りごとや相談】



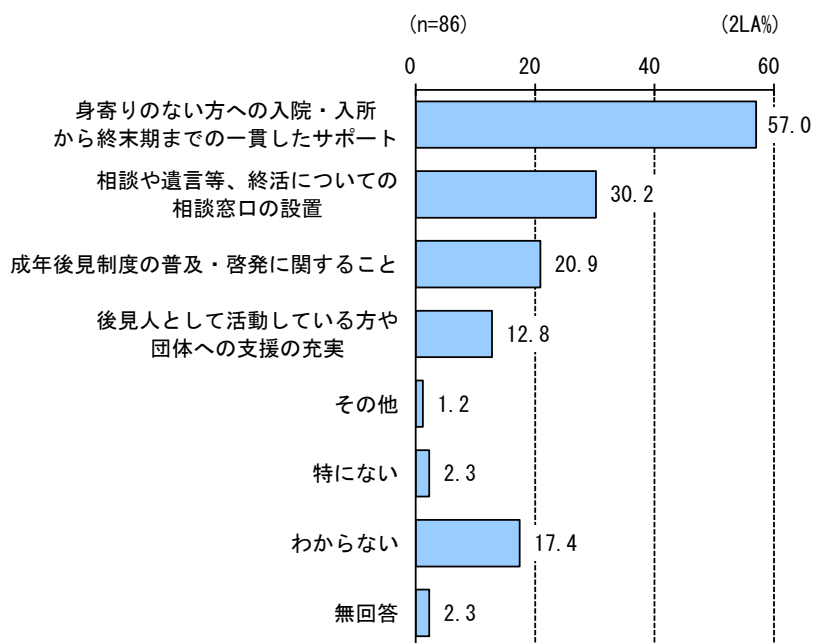
(2) 権利擁護支援について、今後必要だと感じる取り組み

問18 権利擁護支援について、今後どのような取り組みが必要だと感じますか。(2つまで○)

権利擁護支援について、今後必要だと感じる取り組みは、「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」が 57.0%と最も多く、次いで、「相談や遺言等、終活についての相談窓口の設置」が 30.2%、「成年後見制度の普及・啓発に関すること」が 20.9%、「後見人として活動している方や団体への支援の充実」が 12.8%となっている。

一方、「わからない」が 17.4%となっている。

【図 権利擁護支援について、今後必要だと感じる取り組み】

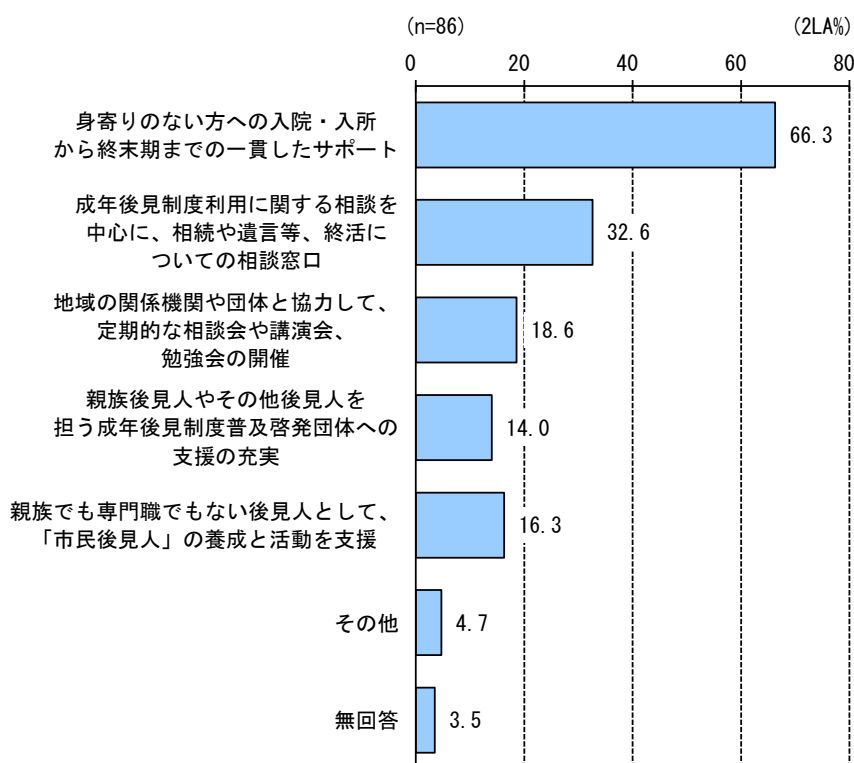


(3) 権利擁護センターに期待すること

問19 あなたは権利擁護センターのどのようなことを期待しますか。(2つまで○)

権利擁護センターに期待することは、「身寄りのない方への入院・入所から終末期までの一貫したサポート」が 66.3%と最も多く、次いで、「成年後見制度利用に関する相談を中心に、相続や遺言等、終活についての相談窓口」が 32.6%、「地域の関係機関や団体と協力して、定期的な相談会や講演会、勉強会の開催」が 18.6%、「親族でも専門職でもない後見人として、「市民後見人」の養成と活動を支援」が 16.3%、「親族後見人やその他後見人を担う成年後見制度普及啓発団体への支援の充実」が 14.0%となっている。

【図 権利擁護センターに期待すること】



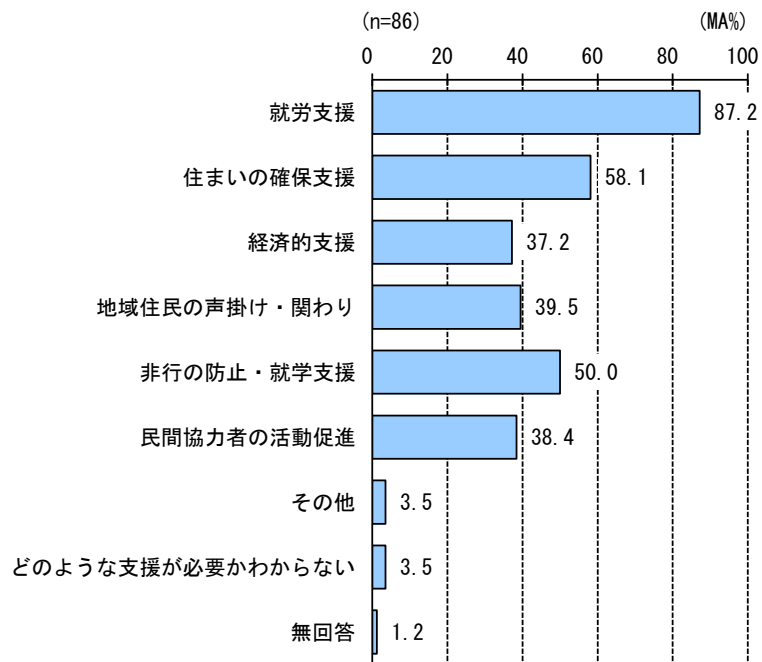
5. 再犯防止について

(1) 罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援

問20 罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は何だと思いますか。
(いくつでも○)

罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は、「就労支援」が 87.2%と最も多く、次いで、「住まいの確保支援」が 58.1%、「非行の防止・就学支援」が 50.0%、「地域住民の声掛け・関わり」が 39.5%、「民間協力者の活動促進」が 38.4%となっている。

【図 罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援】

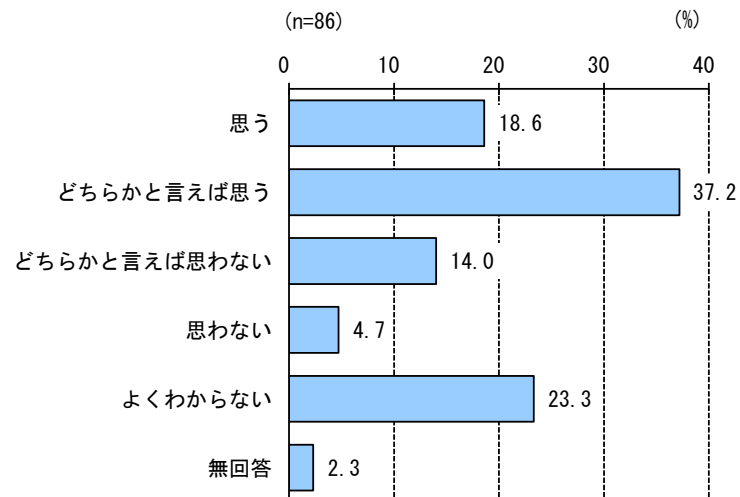


(2) 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うか

問21 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(1つに○)

非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うかは、「どちらかと言えば思う」が 37.2%と最も多く、次いで、「よくわからない」が 23.3%、「思う」が 18.6%、「どちらかと言えば思わない」が 14.0%、「思わない」が 4.7%となっている。

【図 非行や犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思うか】

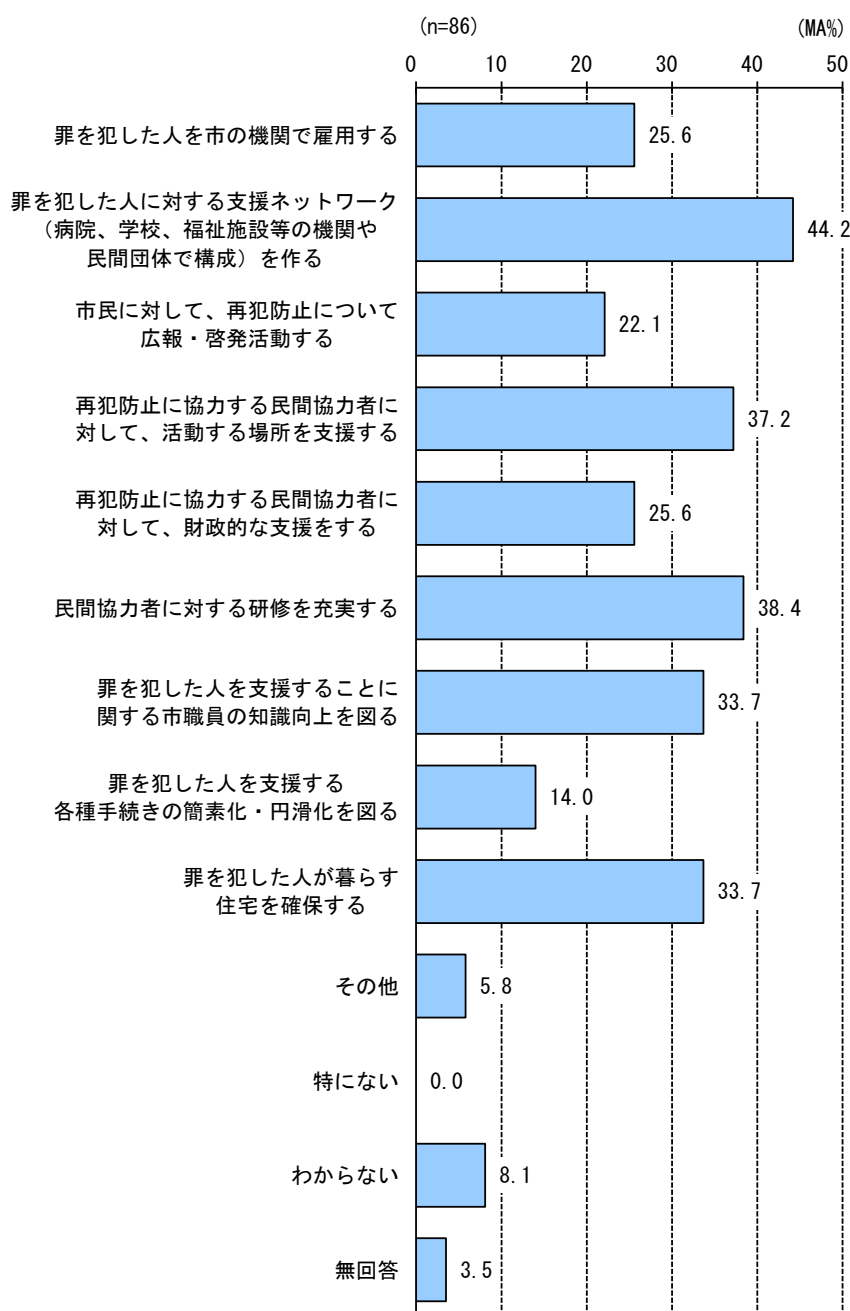


(3) 再犯防止のために、和光市がすべきだと思うこと

問22 再犯防止のために、和光市は何をすべきだと思いますか。(いくつでも○)

再犯防止のために、和光市がすべきだと思うことは、「罪を犯した人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設等の機関や民間団体で構成）を作る」が 44.2%と最も多く、次いで、「民間協力者に対する研修を充実する」が 38.4%、「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所を支援する」が 37.2%、「罪を犯した人を支援することに関する市職員の知識向上を図る」、「罪を犯した人が暮らす住宅を確保する」がそれぞれ 33.7%、「罪を犯した人を市の機関で雇用する」、「再犯防止に協力する民間協力者に対して、財政的な支援をする」がそれぞれ 25.6%となっている。

【図 再犯防止のために、和光市がすべきだと思うこと】



6. 自由意見

自由記載
近隣との交流やつながりが希薄になっている中で、犯罪（特に近年増えている闇バイトの強盗など）対策が難しくなっていると思います。安心して暮らせる街にする為に住民一人一人がどのような取組みをすれば良いか知りたいです。
治安に関すること。安心・安全が当り前の社会になるように願います。
子供の意見を聞ける大人を育てることが必要。大人は自分の体験をもとに小人をおさえがちだと考えます。自分が子供だったことを忘れてしまった大人が多くなった。
和光高校の生徒が、自転車で交差点を左右確認することなく走っている。大きな事故になっていないけれど、いつ事故が起きてもし不思議ではない。
地域活動に興味を持っている方はいると思うが、参加・協力がとても少ない。決まった人達が色々な活動をしている。継続が心配。
両親共に仕事を持っている家庭が当たり前になっている最近、子どもの心の成長がとても気になります。物ではなく、心の充足を与える子育てをしてほしいです。乳幼児期の子育てを重要視して頂きたい。
今まであった自治会などが無くなり、近所の情報さえ得にくくなってきた。地区の清掃さえ実施できない現状で、交流はなくなってきた。とても活動しにくい雰囲気になってきている。後継者も思いつかない。
・農地が放置してあり、セイタカアワダチソウが群生していて、市役所に連絡したが花が終わり種になった現在も手付かず。来年が大変！、・公園で夜に飲食をしてゴミを放置して行く人がある。
自ら困っている人を探すのは難しいことですが、今の世の中、個人情報厳しく、困っていることを他人にあまり言わない人が多いようです。地域での会話で困っている様子があれば、察知して行政につなげていけたらと思います。
同じマンションの住人の息子さん(高1年生)が夜 11 時頃、友達数人でバイクに乗ったり、道路で騒いだりしており、近隣住民より苦情を言われている。
足が悪くなる高齢者が多いので、バスの利用促進策は必要かと思います。
個人情報という問題もありますが、地域の民生委員が知らない人の場合、顔合わせをさせていただくと活動がしやすくなる気がします。白子三丁目は、和光市の端で、市の祭りやその他催し物を見に行くのに不便、介護予防施設も交通の便が悪く、参加したくても躊躇する方が多いです。普通の人には交通機関（公共）があるので乗り継いでいけばいいことなのですが。
活動していると「ゆずり合い」「親切」「協力」など福祉の場合プラス効果を感じることも多い。反面、「自分勝手」「我が先」「違法行為」一例→柏ナンバー（右側通行）にて渋滞を避けて抜け道へ出るなどの危険行動も見た。「本人」の人としてふさわしい行為をふるまえるのか疑問を持った。この人物が事故を和光市内で起こさないことを心より願っている次第です。
私の地域からは、和光市福祉会館に直で繋がるバスがない。駅にいくにも、わこばは時間がかかるようになった。朝の一本、昼の一本には、埼玉病院は行かずもあるが。わこば、同じ停留所での乗り継ぎ箇所は少ない。まずは近所の方の情報が大切と思われます。困っている問題がありそうな方の情報を民生委員にいただければ、福祉に早くつながると思います。それには時々お茶っ子サロンみたいな気軽に参加してお茶を飲んで、地域住民の交流をはかるとよいと思います。市の助成を頂いて。
・公共サービスの申し込み、子ども医療費助成の申請書など、手書きで窓口受付も多い。当事者はもちろん、受け取る自治体側の負担を軽減するために電子申請を整備してほしい、・自治体の会長に知らされている、災害時の要支援者リストの内容が、個人情報に踏み込みすぎていると感じる。障がいの程度を記載する必要はあるのか？点検をしたほうがいい。会長は輪番制の自治体もあり、個人情報の扱いに迷う。
・よく知っている人(子ども)には、声掛けするが、そうでない人に対しての声掛けが少ない。今の生活があまり会話をしなくてもいいようになりすぎている、・ポイ捨てされたゴミが多い。たばこの吸い殻を筆頭に、パンの袋、飲んだ後のペットボトルや缶、バックなど。
外国の方が増えて来ているので生活習慣の違い、言葉が通じなかったりするのでルール違反をしても、注意の方法がわからない。ゴミの出し方など乱雑になってきている。

自由記載
地域住民が主体的にかかわる事業が多く、会議室の利用度は高い。しかし、現状では地域住民にとって利用しやすい会議室は少ない。ところで、下新倉4丁目にある防災倉庫は、1階が防災備蓄倉庫、2階が会議室である。この防災倉庫の会議室について、一言申し上げたい。この倉庫が立っている場所は、水害危険区域の境界線に立地している。このことから鑑みると、①備蓄品を保管するのであれば、1階ではなく2階に保管場所を確保した方が、水害時に浸水を免れる。また、②高齢者にとって、2階の会議室まで階段を使うことは、安全面から躊躇する。上記①及び②の理由により、下新倉4丁目にある防災倉庫について、1階を会議室、2階を災害時備蓄品倉庫とすることを提案したい。
障害児支援の充実を図って欲しい。福祉においても委託事業が多いと思うが、市の委託と謳っている以上、連携を強化して欲しい。任せきりになっている印象を持つことがある
集合住宅の多い地域に住んでいます。周辺お住まいのどの年齢方に於いても各ご家庭の様子が判りにくいのでどうしたら良いのか…。お子さん連れのママさんや児童さん生徒さんには挨拶がてらお声掛けができればしています。しかし昨今は学校で『声掛け案件』で報告されてしまう事もあるとも聞き声掛けを躊躇してしまったりです。ご高齢の方とは地域包括支援センターで顔馴染みになってお話をする機会があります。皆さんからお困りのお話情報があれば市役所専門部署に繋がれるのですが…。私ができるのはこのくらいです。